

令和２年度第２回墨田区廃棄物減量等推進審議会【書面開催】

ご意見に対する区からの説明・回答

- ・本書において、墨田区一般廃棄物処理基本計画（第４次）素案〔資料４〕については「計画」と記載しています。
- ・「区からの説明・回答内容」において、計画に関連する事項については、該当ページを記載しています。

1 令和元年度ごみ・資源物排出量の実績について（議題１）

No	ご意見・ご質問内容	区からの説明・回答内容
1	資源化率、区民１人１日あたり区収集ごみ量が、それぞれ目標達成が困難になった要因は何か。議題３とも関連する部分だと思うので、仮説を含めて、整理しておく必要があると思う。	資源化率、区民１人１日あたり区収集ごみ量が、それぞれ目標達成が困難になった要因については、計画に記載させていただいています。⇒ 計画 P41「(1)前計画の指標と目標達成状況」
2	各家庭で食品ロスについて考えていく必要があると思う。また、資源物の回収量が大幅低下しているように見える。	ご意見のとおり、食品ロスについては、各家庭で身近にできることから考え、行動していくことが重要です。今後、区として、食品ロスについての知識や啓発を区民・事業者に広く行っていきます。 ⇒ 計画 P33「施策③生ごみの減量と食品ロスの削減」 また、資源回収量は減少傾向にあり、特に集団回収による回収量が減少しています。今後、区として「集団回収への積極的な支援」を含め、資源化への取組を推進していきます。 ⇒ 計画 P35「施策⑧集団回収への積極的な支援」
3	ごみ・資源物排出量の実績は長年見ても若干の変動はあっても変化がないところを見ると、一人ひとりが今までと違ったライフスタイル（ペットボトル飲料は買わない、食材はほとんど捨てず全部使い切るなど）を大きく変えない限り減ることはないと思う。	ご意見のとおり、ごみを減量していくためには、一人ひとりのライフスタイルを見直すことが非常に重要です。本計画において、「もったいないの一步先 ごみを出さない New Style ~未来へつなぐ 持続可能な循環型のまち すみだへ~」をスローガンに、区民一人ひとりのライフスタイルの変容を促していきます ⇒ 計画 P23「基本理念のスローガン」
4	集団回収のあり方を見直す必要があると考える。そして行政回収にシフトする対策を検討すべきかと思う。この点に関して、皆さんと議論すべきか考える。 資源化率からみて、分別排出の促進が重要だが、まず資源化事業の促進がカギと思う。それと同時に区民の分別排出についての教育と拠点回収をどう促進させていくかが検討課題と思う。	集団回収は、行政回収として比較して少ない経費で資源を回収できるだけでなく、地域の絆づくりやごみ減量への意識啓発、環境学習の場として有効な取組です。そのため、区としては集団回収を最も中心的な回収方法と位置付け、集団回収で回収しきれないものを行政回収による方法で回収しており、今後もそのスタンスは継続していく予定です。 「資源化事業の促進」、「拠点回収の促進」については、資源化への取組を推進していくとともに、国においてプラスチック資源循環のための新たな

		な制度づくりが検討されていることを踏まえ、国の動向等を注視し、資源物回収のあり方について検討していきます。 ⇒計画 P35「施策⑦新たな資源回収のあり方の検討」 「分別排出の教育」については、わかりやすく、きめ細やかな情報を提供していくとともに、幅広い年齢層を対象に環境学習を充実させ、ごみや資源物の問題に対して、自ら考える機会を提供していきます。 ⇒計画 P36「施策⑨わかりやすく、きめ細やかな情報提供」 ⇒計画 P37「施策⑩環境学習事業による人材育成の推進」
5	コロナ禍であり令和2年度はもっと（ごみが）増えていくと思うが、「区民1人1日あたり区収集ごみ量」の指標はなくなるとの噂があるが、やっぱり区民が増加するにあたり必要なのではないかと考えている。 水切りや食品ロス問題を徹底させていくよう、私自身も啓発活動を頑張っていきたいと思う。食品ロスは真空パック化を進めて賞味期限を延ばすとか、持ち帰りを義務化する等、検討課題が多々あると思う。	「区民1人1日あたり区収集ごみ量」は新たに策定する計画においても引き続き指標として設定します。前計画の指標である資源化率・年間総排出量は、新たな計画においては参考値として扱います。 ⇒計画 P42「(2)新たな指標の設定」 生ごみの減量と食品ロスの削減については、発生・排出抑制に重点をおき、水切りの徹底などの身近なところからの取組を促していきます。また、「食べきり推奨店登録事業」など、区民・事業者・行政が協働した取組を推進していきます。 ⇒計画 P33「施策③生ごみの減量と食品ロスの削減」
6	・家庭と事業者から出る様々なプラごみを一括して回収するようにすることで、リサイクルの向上になるのでは。 ・包装の軽量化によるプラスチック量の削減できるのでは ・プラごみを各業者がリサイクル・焼却・埋立ての3つにわけていろいろと利用（活用）の規制対象にしている。	現在、国においてプラスチック資源循環のための新たな制度づくりが検討されています。このことを踏まえ、国の動向等を注視し、プラスチック類の資源化を含めた資源物回収のあり方について検討していきます。 ⇒計画 P34「施策④プラスチックごみの削減」

2 すみだ清掃事務所事業報告（令和2年度上半期）について（議題2）

No	ご意見・ご質問内容	区からの説明・回答内容
1	区収集ごみの排出量については、新型コロナウイルスの影響も確かにあると思うが、生活スタイルや世帯の変化等、人口動態やトレンド等で予測することも可能かと思う。 また、With コロナの時代を見据えて、起り得る変化についても、議論しておく必要があると思う。	新型コロナウイルス感染症は、ごみ量だけでなく、生活スタイルや人口動態にも影響が及ぼしています。そのため、長期的な将来ごみ量を予測するためには、経年的なデータ収集・分析が必要であると考えています。計画において、ごみ・資源物排出量の予測には、新型コロナウイルス感染症の影響を含んでいませんが、新型コロナウイルス感染症が廃棄物処理に及ぼす影響については、継続的に調査・分析を行っていきます。 ⇒計画 P45「新型コロナウイルス感染症による予測値への影響について」

2	ごみ袋へのレジ袋などの使用見直しなどよいと思う。定着するまで人の意識が長くかかるかもしれませんが。 墨田区の事業報告はよいと思う。	現時点で、レジ袋をごみ袋へ利用することについて見直しを求めることは考えていませんが、マイバックの積極的利用など、「ごみを出さないライフスタイル」を普及啓発することで、「不要物の発生そのものを減らす」ことを推進していきます。 ⇒計画概要版 P8 「6 ごみ減量に向けて一人ひとりができること」
3	「サイクルの日」、「ハブラシ・ペットボトルキャップのリサイクル事業」の広報活動を積極的にして欲しい。回収拠点の拡大をして欲しい。	各資源化事業については、区報や HP に加え、各町会・自治会に啓発チラシ送付するなど、普及啓発に努めているところですが、引き続き、啓発と情報提供の強化に努めていきます。 回収拠点の拡大については、区民の利便性や費用対効果を踏まえ、検討していきます。 ⇒計画 P36「施策⑨わかりやすく、きめ細やかな情報提供」 ⇒計画 P35「施策⑦新たな資源回収のあり方の検討」
4	ハブラシの拠点回収が始まったが、私は不要になったハブラシは風呂場や台所の排水溝などの清掃や作業で油を付けたりするのに重宝している。汚れがひどいとか油まみれになっておるハブラシは今までと同じ燃やすごみとしての扱いが望ましいのか	清掃等に使用したハブラシについてもリサイクルの対象ですが、軽く水洗いをして出すようにお願いします。水洗いなどをしても取れない汚れや油がついているハブラシは燃やすごみとして出すようにお願いします。
5	ごみ出しのマナーが悪い人がいる一方で、清掃事務所職員に対して、感謝や激励のメッセージがあるというのは心が和んでうれしい話である。	頂いたお手紙やメッセージは、すみだ清掃事務所（本署）の壁一面に飾り、収集職員が毎日見て、収集作業にあたっています。 区民の皆様の「想い」に答えるためにも、コロナ禍においても感染症防止策を講じつつ、安定性・継続性のある収集・運搬体制を構築していきます。 ⇒計画 P40「新型コロナウイルス感染症に適応した 3R 推進・清掃事業の展開」
6	スーパー等でのレジ袋が有料化になったせいか、ごみを出す際に小さい袋に満タンに詰めて出す人がいる。その結果、袋が破けて中の汁物が出ていたりして不衛生な状態になっている。 また、資源物回収において、フルーツ缶詰の空き缶を、中を洗わず汁が残ったままの状態を出しており、夏場に蟻がたかっているような状態であった。やはり燃やすごみでも資源物でも今一步中をきれいに（洗わなくてもせめてこぼれるようなことがないくらいの状態）出してもらえば、回収する人も近辺の住民にと	ごみ・資源物にかかわらず、汚損した状態で排出した場合、集積所が不衛生になり、カラス被害の悪化などが懸念されます。また、汚れた状態で資源物を排出した場合、選抜の際にリサイクル対象外となる場合もあります。 区として、缶・びん・ペットボトル・食品トレーは「中をよく洗って出す」ことをお願いしていますが、周知・啓発を強化するとともに、ごみを出す際にも「汚損しないように出す」ことを「資源物・ごみの分け方・出し方」に記載するなど、周知・啓発について検討していきます。

	っても嫌な思いをしなくても済むと思う。この辺りの対策を考えていけないか。	
7	コロナ禍の中で回収していただき、厚く感謝している。作業内容がさらに増え、大変な時期だが地道な活躍を期待している。拠点回収の中で、資源の再生化を事業拡大と相まって進めようとしていることに大いに賛同する。	ご意見ありがとうございます。区民の皆様の「想い」に答えるためにも、コロナ禍においても感染症防止策を講じつつ、安定性・継続性のある収集・運搬体制を構築していきます。 ⇒計画 P40「新型コロナウイルス感染症に適應した 3 R 推進・清掃事業の展開」 また、「資源化事業の促進」については、資源化への取組を推進していくとともに、国においてプラスチック資源循環のための新たな制度づくりが検討されていることを踏まえ、国の動向等を注視し、資源物回収のあり方について検討していきます。 ⇒計画 P35「施策⑦新たな資源回収のあり方の検討」
8	羽毛布団のリサイクル事業は、前回初めて知ったが、実績ができて大変良かったと思う。回収拠点を、学校や PTA、公園、老人会、施設などに広げ、指定業者と一緒にマッチングしていったら如何か。 また、回収拠点の発表が速やかにわかるようなシステムも必要になってくるのではないか。	回収拠点の拡大については、区民の利便性や費用対効果を踏まえ、検討していきます。 また、今後、資源物回収場所が確認できる「すみだリサイクルマップ（仮称）」の作成などを検討しています。 ⇒計画 P36「施策⑨わかりやすく、きめ細やかな情報提供」 ⇒計画 P35「施策⑦新たな資源回収のあり方の検討」
9	すごく良く調べているので感心した。	ご意見ありがとうございます。今後も、「わかりやすく、きめ細やかな情報提供」を心がけ、3 R 推進・清掃事業に係る情報を報告させていただきます。 ⇒計画 P36「施策⑨わかりやすく、きめ細やかな情報提供」

3 墨田区一般廃棄物処理基本計画（素案）について（議題3）

No	ご意見・ご質問内容	区からの説明・回答内容
1	リモートワークが浸透すると、紙ごみや生ごみの量に加えて、肉食関連のトレーなどのごみが今後増えていくように思う。まずは、このあたりの実態把握を行ったうえで、対策を検討していく必要性を感じている。 また、紙おむつについては、子育て世代、高齢世代ともに、今後、増えていくことが予想されるので、環境省のガイドラインを	新型コロナウイルス感染症の影響で、区収集ごみや食品トレー・古紙などの資源物が前年比で増加しています。今後、排出実態調査の実施等も見据え、実態把握と対応策を検討していきます。 ⇒計画 P40「新型コロナウイルス感染症に適應した 3 R 推進・清掃事業の展開」 紙おむつについては、令和2年2月にリサイクル企業に視察を実施する

	参考に、実態把握と対策の検討を進めていく必要があると思う。	など、検討してきましたが、近隣にリサイクル企業がないことによる収集運搬時の費用等の課題があり、現時点では実施は困難と考えています。今後、環境省から示される通知や情報等を基に、引き続き実態の把握と対策の検討を行っていきます。
2	区の実態はよいと思う。	ご意見ありがとうございます。「廃棄物を減量し、循環型社会の実現をめざす」の基本理念の基に、計画の施策については着実に実行していきます。
3	計画 P33「施策② 3R から“すみだの R”への取組推進」 →主な取組の「2R を優先とした啓発活動の強化（すみだの“R”づくり）」を優先施策に 計画 P36「施策⑨ わかりやすくきめ細やかな情報提供」 →集積所看板の改良。回収品目についてイラスト等を使って外国人にわかるようにする。 計画 P37「施策⑩ 環境学習事業による人材育成の推進」 →小学校に資源物回収場所を設置する 計画 P39「施策⑯ 災害時における廃棄物処理対策」 →収集場所の確定	・「施策② 3R から“すみだの R”への取組推進」について →本計画において、2R の推進を第一義的に位置付けていることから、「2R を優先とした啓発活動の強化（すみだの“R”づくり）」については、重点施策として実行していきます。 ・「施策⑨ わかりやすくきめ細やかな情報提供」について →周知・広報に関しては、外国人にも理解しやすい「やさしい日本語やイラストなどを多用し、わかりやすい情報提供を積極的に行っていきます。集積所看板においても、早期の対応は困難ですが、新調時等において対応を検討します。 ・「施策⑩ 環境学習事業による人材育成の推進」 →現在、「ハブラシリサイクル」の拠点として、区内公立小中学校に回収ボックスを設置しています。回収拠点の拡大については、区民の利便性や費用対効果を踏まえ、検討していきます。 ・「施策⑯ 災害時における廃棄物処理対策」について →災害によって発生したがれきやごみを仮置きするスペース（仮置き場等）については、令和2年6月に策定した「墨田区災害廃棄物処理計画」に示させていただいています。 →墨田区災害廃棄物処理計画は以下の URL よりご覧になれます。 https://www.city.sumida.lg.jp/kurashi/gomi_recycle/keikaku_shiryou_data/ippai_syori_keikaku/ta702000-0617.html
4	計画 P39「施策⑭ごみ集積所と戸別収集のあり方の検討」 ごみ集積所においてマナーの悪い集積所があるが、そのあたりの地域に関して実験的に戸別収集をしてみたらどうか。その地域の人たちの大半はマナーを守ってごみ出しをしているので、外部からそこに持ち込む人がいなくなり、また、地域の多少マナーの悪い人でも戸別収集することによって少しは意識が変わるのではないかと思う。収集車増加などの費用の問題も絡むことなの	戸別収集については、マナーの問題に加え、高齢化が進む中で重要性が増してくると認識しています。戸別収集のあり方については、ご意見にあるような手法も視野に入れ、検討していきます。 →計画 P39「施策⑭ごみ集積所と戸別収集のあり方の検討」

	で、まずは試験的にみて効果の検証をしてみたらどうか。	
5	基本計画にはないが、ごみ出しに関して区独自で新たに条例を制定することはないですか。タバコのポイ捨ては錦糸町エリアでは罰則があると思う。それと同じように、犬の糞を取らずにいる飼い主に対して罰則を設けることはできないか。朝起きたら玄関の前に糞があったり、また道先に連れなつた糞がしてあったりして近くの住民が大変迷惑している事例がいくつもある。飼い主がマナーさえ守れば何の問題もないことなので条例を制定することによって抑止力にもなるのではないか。	ペット等の糞害に関しては、生活衛生課が所管部署となります。生活衛生課に確認したところ、現在、ペット等の糞害に関して条例は定めていませんが、個別に相談を承っており、注意喚起のプレートを無料でお渡ししているとのこと。お手数ですが、詳細につきましては生活衛生課にお問い合わせください。 ➡所管部署：生活衛生課生活環境係 03-5608-6939（直通）
6	全般を見て、非常によくまとめられており、またポイントも的確に捉えており素晴らしい資料だと思う。関係諸氏の並々ならぬご尽力に敬意を称します。	計画の策定にあたっては、委員の皆様にご多大な御協力を厚く御礼申し上げます。今後、パブリックコメント（意見募集）を実施し、区民意見を反映し、最終案を策定させていただきます。
7	基本方針①を達成させるためには、「基本方針② 普及啓発の拡充」が大切だと思う。区内に1万2千人の外国人がいるが、観光客を含めると墨田区は本当に外国人が多くなった。そのほとんどの人が、「ごみ箱がナイ、捨て場所がワカラナイ、分別はどうスルカ」悩んでいる人が多いのではないか。日本でのライフスタイルが楽しいものであって欲しいと願うばかりです。	ご意見にありように、増加が見込まれる外国人に対する普及啓発は非常に重要だと認識しています。今後、外国人にもごみの排出やりサイクルへの参加方法が理解しやすいよう、「やさしい日本語」やイラストを活用し、わかりやすい情報提供を積極的に行っていきます。 ➡計画 P36「施策⑨わかりやすく、きめ細やかな情報提供」
8	計画書 P14「エ選別回収」 陶磁器製食器類や小型家電製品、乾電池を選別回収し、資源化していることは良いことだと思います。	ご意見ありがとうございます。引き続き、資源化への取組を推進するとともに、資源化すべき品目やその回収方法について区民の利便性向上や費用対効果を踏まえた検討を進め、限りある資源の持続可能な利用とごみ減量の実現をめざします。
9	・前回の素案よりも全体的に文字が見やすくなり、分かりやすくなった。 ・計画概要版 P8 は、とてもわかりやすい。 ・コンサルに委託せず、直営の職員が策定したことは、素晴らしい。区の行財政改革実施計画に貢献している。 ・審議会の開催については、各種課題があることは認識しているが、WEB 会議を推進して欲しい。	ご意見ありがとうございます。新たに策定する計画につきましては、コンサルに委託せず、直営の職員で策定作業にあたってきました。直営職員が策定することのメリットとして、①コストの削減、②職員のスキルアップ、③コンサル事業者との打ち合わせを介在せず、コロナ禍においても機動的で安定した策定作業 などが挙げられます。今後も引き続き、すみだ清掃事務所職員が一丸となって、計画の策定及び計画の施策実行に向けて励んでいきます。 また、WEB 会議については、アンケートにおいて 1/3 の委員から「WEB 会議が望ましい」という意見を頂きましたが、区の備品や委員の皆様の参加可否状況を鑑み、現状では実現は困難との認識でいます。効率的な審議

		会の開催方法については、今後も引き続き検討をしていきます。
--	--	-------------------------------